

「救い主誕生の意味」

イザヤ書 9:1-7

(ミカ書 5:4)

【1】アドベント

今日からクリスマスまでの四週間アドベントの期間に入った。アドベントとは、ラテン語の「到来」を意味することばによる。旧約聖書において約束された救い主がいよいよおいでになる。その救い主の到来を待ち望むときである。この到来の主を私たちの心にお迎えするのがアドベントの意義深い過ごし方である。

旧約時代の人々は救い主キリストの誕生を待ち望んだ。そして、約束の通りキリストはお生まれになった。このキリスト誕生後の時代を生きる私たちにとって、神の約束が確かに成就したことを通して神に信頼することができる。そして、この救い主が約束してくださった再びこの地に来られるという再臨の時を待ち望むことができる。今、私たちはキリストの生涯、死、復活からこの誕生を覚える時、そこにある神の思いを知ることができるのである。

【2】救い主への期待

ミカ書 5：2は救い主誕生の預言のことばである。旧約聖書のミカ書によって、救い主はベツレヘムに生まれることが約束されていたことがわかる。

人々はこの約束の救い主に何を期待して待ち望んだのであろうか。救い主は何から救ってくださるのであろうか。

イザヤもミカも同時代の預言者であった。この時代、イスラエルは南北に分裂しており、北イスラエルは神への背きのゆえにアッシリアの手によって滅びた。南ユダに関しても外敵からの圧力を受けていた。そのような時代に

イザヤ、ミカはイスラエルに対して「聞け」と主のみことばを語り、警告を与えた。すなわち、信頼するお方を間違えるなというメッセージである。神に従ったヒゼキヤ王についても敵を見ることによって神への信頼が揺らいでしまった。しかし、主は確かに救いの約束を与えてくださった。それは、人の力による救いではなく、神ご自身の究極的な裁きと救いのメッセージである。

【3】暗闇から光へ

預言者たちは、ユダ王国の危機に対する宣告とともに、その先に起ころうとしている救い主誕生を、さらには最終的な世の終わりについて神の計画を告げた。そこには暗さとともにそこに輝く救いの灯火が掲げられている。イザヤ書 8章においては、この世の暗さ、人間の罪深さが描かれているが、9章になるとこの暗闇の世界が一変していく様が描かれている。「闇、死の陰」とは直接的には預言者たちの時代の様子である。それは、神への信頼を失い、愛の神の手を振り払う罪人の姿なのである。しかし、神はご自身に反発し滅びゆく者たちを見捨てはしなかった。却ってそのような者たちのために、「大いなる光」としての救い主を与えてくださったのである。

神は、救われようのない罪人、神の怒りを受けるばかりの者のために救いの手立てを与えてくださった。私たちが神の怒りから救われるために、神ご自身がその怒りをご自分の尊いお一人子に向けてくださったのだ！この一人子は、再びこの世に下ってこられる(1テサロニケ 1:9-10)。このときは人類にとって最終的なさばきの時でもある。しかし、この御方こそ、神の激しい怒りから私たちに救ってくださる。